学校支援を積極的に進めよう

～学校の教育活動を無理なく陰で支えるＰＴＡ～

豊橋市立本郷中学校ＰＴＡ

１　校区及び学校の概要

本郷中学校区は、豊橋市の中心部と南部との中間に位置している。校区の北部は住宅密集地域で、南部は農業用地であり、比較的人柄がおだやかな地域である。校区の方々の教育への関心も高く、学校の教育活動にも協力的である。

創立４０周年を迎える本校の現在の生徒数は５９０名で、市内では規模の大きい方である。

本校の特色として、生徒主体の活動が多いという点が挙げられる。地域の清掃活動、校区の運動会でのロックソーラン演舞、小中合同あいさつ運動などを行っている。

２　研究のねらい

ＰＴＡ活動が保護者の負担になっているという声をよく聞く。確かに、働き方改革が進む社会ではあるが、生活にゆとりのない保護者も多く、積極的にＰＴＡ活動に参加しようという感じは年々薄くなってきている。しかし、それでは学校と家庭、さらには地域が一体となって生徒の健全な育成を促すことは難しい。そこで、ＰＴＡ活動を見直し、スリム化を図り、無理のない活動にしていくようにしたいと考え、今回の研究に取り組むことにした。

３　研究の仮説

学校とＰＴＡの密接な関係を保ちつつ、活動のスリム化を図れば、ＰＴＡ活動にゆとりが生まれ、さらなる学校支援が可能になるのではないか。

４　研究の方法

前年度の活動内容を踏襲するのではなく、ＰＴＡ活動全体を見通し、スリム化を図ることができないかを考え、効率的にＰＴＡ活動を推進する。

５　研究の実践

（１）会合の回数減

ＰＴＡ委員会や制服バザー関連の会合は、これまで年８回行っていたが、総会の準備会を早めに行う、制服バザーの準備やタオルの仕分けの日を委員会と同じ日に行う、活動報告だけのときは資料の配付で済ませる、などにより、年４回で済むようにした。

【タオルの仕分け作業】

（２）本郷タオルの販売の簡素化

本郷タオルは色別に５種類ある。以前は、２枚、３枚と、同時購入に比例して割引を行っていたが、割引

をやめにし、一律の金額にすることで、金額計算の手間を省いた。

（３）制服リサイクルバザーの簡素化

以前は、種類や劣化の状態に合わせて金額を増減させていたが、一律の金額とし、販売した。

準備に関しても、制服が学校に届いたときに、そのまま紙袋に入れておくのではなく、サイズ順にハンガーにかけておいたため、準備に時間を半減することができた。

また、当日の役割分担も事前にネットで希望をとり、話し合う時間を省略した。

【制服リサイクルバザー】

（４）資源回収の簡素化

以前は、町内別に委員を選出し、校区一斉の資源回収を大々的に行っていたが、狭い道の多い校区のため、危険を伴うものであった。また、中止連絡が徹底しない年もあり、委員の負担はかなり大きなものであった。そこで、資源回収は三者懇談時の持ち寄り回収にすることにした。これにより、町内別の委員を選出する必要はなくなったため、学級２名の委員選出に変えることで、委員数を６０名から３０名に減らすことができた。

６　研究の考察

以上のような取り組みにより、ＰＴＡ活動をスリム化することができたが、学校との関係が希薄になるということはなかった。活動自体がなくなったわけではないからである。生徒の健全育成も活動の目的の一つではあるが、本郷タオルは学校に愛着もたせたり、一体感をもたせたりすることができるのであり、また、制服バザーについても、リサイクルの大切さを学ぶきっかけにつながっている。

７　成果と今後の課題

学校とＰＴＡの密接な関係を保ちつつ、活動のスリム化を図ってきた。

ＰＴＡの声として、「このくらいの仕事量ならだれでもできると思いました」「そんなに大変じゃないよ、とみんなに伝えたい」「資源回収を持ち寄りにしたことで、かなりの仕事量が減りました」という肯定的な感想がほとんどであったのは、この取り組みの成果といえる。

ゆとりができた分、有志による体育祭（玉入れ）参加という気力も生まれたのではないかと考える。今後も活動の精選を図り、無理のない活動を心がけていきたい。

【玉入れに参加】

今後は、役員数を減らすことや、オンライン会合を取り入れるなど、さらなるスリム化やデジタル化を進めていきたい。